



後期高齢者 医療制度

「年寄り早く死ぬというのか」…怒りが広がる中 四野党が廃止法案を提出

医療費を大削減するため、自民・公明が強行した七十五才以上の後期高齢者医療制度：四月一日からの実施予定ですが、「年寄り早く死ぬというのか」「人間としての存在を否定する姥捨て山の制度だ」などなど、今、全国津々浦々から、この制度への怒りがわきあがっています。そんな中、この制度の中止・撤回や見直しを求める意見書が五百十二（二月二十日時点）もの自治体からあがっており、国会では日本共産党、民主党、社民党、国民新党の四野党が、後期高齢者医療制度を廃止する法案を衆議院に提出しました。四野党が共同で法案を提出するのは衆議院では初めてで、この悪法に対する国民の怒りの現れです。そのヒドイ中味とは

七十五才以上の 治療は一ヶ月六千円まで



後期高齢者医療制度の「ヒドイ中味」の一つが『定額制』：七十五才以上の診療料は検査、画像診断、処置、医学管理をすべて含んで「月一回六千円」の定額制にしています。

糖尿病や高血圧などの慢性疾患をかかえるお年寄りを担当する開業医（主治医）を一人に限定し、いくら検査や治療をしても「月六千円の定額制」にするという「姥捨て医療」への誘導が始まります。四月からすぐに全員が一つの開業

医にしか通院できなくなるわけではありませんが、複数の医療機関に係らないようにする仕組みが、導入されようとしています。

七十五才以上の 延命治療はホドホドに



七十五才以上の「後期高齢者終末期相談支援料」が新設されました。これは、医師が「終末期医療で回復を見込むことが難しい」と判断したとき、医師と患者・家族らが終末期の診療方針を話し合っって文書などにまとめたとき支払われる料金：「七十五才以上の延命治療はホドホドに」と「長生きを否定するやり方」です。

七十五才以上の「後期高齢者退院調整加算」が新設されました。これは、七十五才以上の入院患者を「病院に居させないようにするため」の料金です。

七十五才以上は 病院に居させない

七十五才以上の「後期高齢者退院調整加算」が新設されました。

これは、七十五才以上の入院患者を「病院に居させないようにするため」の料金です。



高齢者を病院着のまま 路上に乗せる

アメリカ医療への実験台

アメリカのマイケルムーア監督の映画「シッコ（病氣）」が上映されましたが、その中で、アメリカの高齢者の方々が、病院着のまま、治療中のチューブをつけたままで、次々と病院から路上に棄てられる実録シーンが映し出されました。

まさに「姥捨て（うばすて）山」の医療で、七十五才以上の後期高齢者医療制度は、そのアメリカの医療を目指す実験台です。



市議会質問で明らかになった

全国で一番冷酷な

徳島の七十五才以上「健診」

「七十五才を過ぎたら長生きするな」と言うのか」などの批判がわき起こっている後期高齢者医療制度。その制度の中味は、全国の都道府県にある広域連合で決められています。

その徳島県広域連合の中味を、三月市議会・本会議で質問しましたが、その中で、全国で一番冷酷な「健診の中味」が明らかになりました。

徳島で七十五才になったら

長生きするな・・・と

徳島市の四十才～七十四才までの人には来年度、五十％に「健診」を実施するとしていますが、七十五才を過ぎると、いきなり、わずか三、五％の超低目標です。

徳島県広域連合は「七十五才以上で医者にかかっている人は、健診を受けているのと同じだから、その上に健診する必要がない」との理由を

つけ、整形外科、眼科、歯科などにか



かった人も健診対象からはずし、「一年間、医者にかかったことのない三、五％の人にだけ健診を実施する」としています。

「こんなひどいやり方を実施しているところは他にいいのか：健診目標は全国で何番目か？」との質問に対し、「これは徳島だけのやり方で、全国で一番（ダントツに）低い目標値」と答弁：「こんなやり方は、徳島で七十五才になったら、長生きするなと言っているのと同じだ」と改善を広域連合に要望するよう求めました。



高齢者の受診率が高い 徳島市の健康検査

平成十八年度の徳島市の「健診」ですが、受診率は四十～四十四歳が二十五・二％：七十～七十四歳が六十八・一％、七十五～七十九歳は六十七・六％、八十歳以上は五十四・三％と、高齢者の受診率が非常に高くなっているのが特徴です。

埼玉県広域連合では「四十才以上を対象にした健康検査を実施しており、七十五才に達したことで健康検査の機会が失われることに、住民の理解は得られない」と明記し、七十五才以上の方に健診を実施しています。

通院歴のある三十五％の人
健診で別疾患の異常発見



全国でダントツ最下位の「徳島の健診率目標」ですが、その理由に挙げている「医者にかかっている人は、健診を受けているのと同じ」は、果たして事実なのか：医療現場を訪ねました。

健生病院では「今年度に健診を受けた七十五才以上の人は四百二人ですが、このうち、三十五％の百四十

一人は、通院歴はあるものの、かかっているのは別の疾患で検査結果に異常が出ていたとのことでした。

検査に関わっている病院の方は「通常の治療は病名にそっての検査なので他の異常を発見することは難しい」など話してくださいました。



浮いた一億八千万円を使い

徳島市の七十五才以上の人に

無料健診を求める

私は「健診の改善を広域連合に求める」とともに、徳島市独自の改善を求めました。

「七十五才以上の徳島市民の五十％に、無料健診を実施したら、いくら要するのか」との質問に対し、「八千四百万円」と答弁。

また「徳島市では、健診制度が変わったことで、いくら浮いた（一般会計からの繰入額が減った）のか」との質問に対し、「一億八千万円」と答弁：「浮いた一億八千万円の半分の八千四百万円を使い、徳島市の七十五才以上の人に、無料で健診を実施するよう」求めましたが、拒否されました。